

問1 弥生時代に使用された土器の一般的な特徴を説明したものととして、最も適切なものはどれか。（2026年 北海道公立入試 類似）

1. 表面に縄目の文様が全体に施されており、厚手で黒褐色をしている。
2. 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。
3. 呪術的な目的から、表面に激しい隆起や複雑な装飾が施されている。
4. ろくろを使用せずに低温で焼かれたため、形が歪んでおり非常に厚くて脆い。

問2 古代の日中関係をまとめた学習レポートにおいて、5世紀のヤマト王権による外交について記述する場合、その内容として正しいものはどれですか。（2025年 神奈川県公立入試 類似）

1. 「倭の五王」と呼ばれる王たちが、中国の南朝に使節を派遣し、朝鮮半島での軍事的な指揮権や自らの地位を認めさせようとした。
2. 邪馬台国の卑弥呼が中国の魏に使節を派遣し、「親魏倭王」の称号とともに金印を授かり、国内の小国連合の統制を強めた。
3. 奴国の王が中国の後漢へ使節を派遣し、光武帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かって、北九州での地位を確立した。
4. 小野妹子が遣隋使として中国の隋へ派遣され、対等な立場での外交を求める国書を提出して、新しい官制や憲法を導入しようとした。

問3 弥生時代に本格的に始まった稲作において、収穫の際に用いられた石包丁の使用方法について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2017年 千葉県公立入試 類似）

1. 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた
2. 稲を根元から刈り取るために用いられた
3. 収穫した後の脱穀を行うために用いられた
4. 土を掘り返して苗を植えるために用いられた

問4 弥生時代の社会における銅鐸の特徴や役割について述べた文として、正しいものを選びなさい。（2023年 三重公立入試 類似）

1. 次第に大型化し、表面には当時の生活や自然を反映した装飾が施されるようになった
2. 鉄器よりも硬度が高いという性質を活かし、木を伐採するための工具として普及した
3. 大陸との交易を円滑に進めるために、重さに応じた価値を持つ貨幣として使われた
4. 各個人の家の中に置かれ、日常的に家族の健康を祈るための仏具として使われた

問5 古代日本の生活文化について述べた次の文のうち、衣料に関する記述として正しいものを選びなさい。（2026年 栃木公立入試 類似）

1. 古墳時代の有力者は、麻のほか絹を用いた衣服を身につけることもあった。
2. 弥生時代には稲作とともに綿の栽培も伝わり、民衆の服の多くは綿製であった。
3. 古代の日本列島では乾燥した気候を活かした羊の飼育が盛んで、羊毛が主な原料だった。
4. 当時の技術では植物繊維を利用することができず、衣服のすべてが動物の皮で作られていた。

問6 弥生時代の日本における生活や道具について述べた次の文のうち、歴史的事実として正しいものはどれですか。（2017年 千葉県公立入試 類似）

1. 稲作が本格的に広まり、収穫のために石包丁が利用された
2. ナウマンソウなどの大型の動物を捕らえて主な食料としていた
3. 表面に縄目の文様がついた土器が、煮炊きや貯蔵に広く使われた
4. 大陸から渡来人によって仏教が伝えられ、寺院が建立され始めた

問7 弥生時代に大陸から稲作が伝わり、食料を蓄えることが可能になったことで生じた社会の変化について、最も適切な説明を選んでください。（2021年 神奈川県公立入試 類似）

1. 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。
2. ナウマン象などの大型動物を狩猟するために、人々は移動を繰り返しながら生活するようになった。
3. 政府から農民へ平等に土地が割り当てられ、収穫した稲を税として納める制度が整った。
4. 表面に縄目の文様がある、厚手で黒褐色の土器が全国的に作られるようになった。

問8 弥生時代に大陸から稲作が伝わると、収穫のための道具として磨製石器の一種が広く使われるようになりました。中央に2つの小さな穴が開いた半月形の形状をしており、稲の穂先のみを摘み取るために使用されたこの道具の名称を選びなさい。（2024年 秋田県公立入試 類似）

1. 石包丁
2. 鉄鎌
3. 磨製石斧
4. 尖頭器

問9 3世紀の倭（日本）において、邪馬台国の女王である卑弥呼が中国の魏へ使節を送った目的や、その当時の様子を説明したものととして、正しいものはどれですか。（2023年 大分県公立入試 類似）

1. 卑弥呼はまじないを用いて人々を従えて国を治め、魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かった。
2. 卑弥呼は鉄製の武器や農具を大量に輸入するために、朝鮮半島の楽浪郡を通じて後漢の皇帝へ朝貢を行った。
3. 卑弥呼は九州北部の奴国を統一し、大陸の優れた仏教文化を取り入れるために隋へ小野妹子を派遣した。
4. 卑弥呼は中国の皇帝に対して、倭国内での地位を認めさせるのではなく、対等な立場での外交関係を求めて使節を送った。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 2</b> 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。	弥生土器は、縄文土器に比べて高い温度で焼かれるようになったため、薄くて硬いという特徴を持ちます。縄文土器に見られるような激しい装飾や複雑な文様は少なくなり、機能性を重視したシンプルな作りが特徴です。
問2	<b>答え 1</b> 「倭の五王」と呼ばれる王たちが、中国の南朝に使節を派遣し、朝鮮半島での軍事的な指揮権や自らの地位を認めさせようとした。	5世紀のヤマト王権（倭）では、「讃・珍・済・興・武」の5人の王（倭の五王）が、中国の南朝に次々と使節を送りました。これは当時の中国の歴史書である『宋書』倭国伝に記されています。彼らは、朝鮮半島の百濟や加羅（加耶）などに対する軍事的な指揮権や影響力を中国の皇帝に認めってもらうことで、国際的な地位を高めようとしていました。3世紀の卑弥呼は「魏」に、1世紀の奴国王は「後漢」に使節を送っており、時期と王朝の組み合わせを正しく把握することが重要です。
問3	<b>答え 1</b> 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた	弥生時代前期の収穫方法である「穂首刈り」に関する問いです。当時は稲が実る時期が一定ではなかったため、実った稲の穂だけ一つずつ石包丁で摘み取っていました。根元から刈り取る方式は、後に鉄製の鎌が普及するまで一般的ではありませんでした。
問4	<b>答え 1</b> 次第に大型化し、表面には当時の生活や自然を反映した装飾が施されるようになった	青銅器は、鉄器に比べると柔らかいという性質があるため、実用的な工具や武器よりも、権威を示す宝物や祭りの道具として発展しました。銅鐸は時代が下るにつれて、音を鳴らすためのものから「見るためのもの」へと大型化し、表面には狩猟や農耕の様子など、当時の社会を映し出す絵画的な装飾が見られるようになります。
問5	<b>答え 1</b> 古墳時代の有力者は、麻のほかに絹を用いた衣服を身につけることもあった。	弥生時代や古墳時代には、すでに麻や絹を織る技術が存在していました。特に身分の高い人物は、貴重な絹を用いた衣服を着用していたことが遺跡の出土品などから確認されています。綿（木綿）や羊毛（ウール）が日本の衣料の主流となるのは、中世以降や近代になってからのことです。
問6	<b>答え 1</b> 稲作が本格的に広まり、収穫のために石包丁が利用された	弥生時代は、大陸から伝わった稲作や金属器の使用が始まった時代です。食料確保の手段が狩猟・採集から農耕へと大きく変化し、稲の収穫には石包丁が使われました。大型動物の狩猟は旧石器時代、縄文土器の使用は縄文時代、仏教の伝来は古墳時代から飛鳥時代にかけての出来事です。
問7	<b>答え 1</b> 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。	稲作が普及すると、生産力の向上により食料の蓄え（余剰生産物）ができるようになりました。これにより、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれるとともに、稲作に不可欠な土地や水の利権をめぐって集落（ムラ）同士の争いが発生するようになりました。こうした争いを通じて、次第に多くのムラを統合する小国が形成されていきました。
問8	<b>答え 1</b> 石包丁	弥生時代に稲作が本格化する中で、収穫用具として石包丁が誕生しました。石を磨いて作られた磨製石器で、穴に紐を通して指に固定し、手のひらで包むようにして稲の穂を一つひとつ摘み取る「穂首刈り（ほくびがり）」が行われました。のちの時代に鉄製の鎌が普及するまでは、この石包丁が収穫の主役でした。
問9	<b>答え 1</b> 卑弥呼はまじないを用いて人々を従えて国を治め、魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かった。	『魏志』倭人伝には、卑弥呼が「鬼道（まじない）」によって衆を惑わした（人々を従えた）ことや、魏に使いを送って「親魏倭王」という称号を授かったことが記されています。これは、中国の皇帝に貢物を送る（朝貢する）ことで、自らの支配者としての正当性を認めさせ、他国に対して有利な立場に立とうとする当時の国際関係の仕組みを反映しています。